

平成28年度 学校自己評価システムシート(県立深谷商業高等学校 情報会計専攻科)

目指す学校像	本校の輝かしい歴史と伝統の上に立ち「至誠・士魂商才」の校訓のもと、「中学生が、あこがれを持って目指す学校」、「企業から信頼される生徒を育てる学校」、「地域に貢献し、支援される学校」、「生徒、教職員が生き生きと活動する学校」を目指す。
--------	--

達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 商業に関する知識と技術をバランスよく備えた人材を育成する。 関係機関との連携を図り、開かれた学校づくりを推進する。 専攻科の特性を生かした進路指導の充実を図る。 生活指導を充実させ精神の修養を図る。
------	--

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する)は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	3名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	5名

学 校 自 己 評 価					学 校 評 価(2月1日 現在)		学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標					年 度 評 価		実 施 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	<ul style="list-style-type: none"> 新たな教育課程に基づき授業が展開され簿記会計および情報処理に関する実践的な知識や技術をバランスよく学習し、資格取得と実践教育の調和を図った授業を行っている。 学校目標の実現に向け、より充実した学習内容となるよう、授業内容・方法の工夫・改善をさらに進める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画にもとづいて、各科目の授業が実施されているか。 学生の期待する質の高い授業を実施できたか。 教科指導力の向上のため、実務での活用事例等の研究は行われているか。 学生が積極的に授業に参加できているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 各科目の目標と授業計画の設定を行い、授業を進める。 授業科目において、学生の期待する内容を把握し授業を実施するとともに、取得可能な資格に挑戦させる。 日常的や長期休業の際に、実務の現状を把握する研修を行う。 発問や対話による授業展開、新聞紙面等を利用した時事的課題を授業に取り入れ、学生自らが参加し考える授業を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> より実践的・実務的な指導内容にもとづいた授業実施の状況 学生からの授業評価および授業科目に関連する資格取得の状況 研修実施の有無 学習の取組みに関するアンケート調査結果 	<ul style="list-style-type: none"> 会計分野・情報分野とも分野毎の目標、授業計画にもとづいて適切に授業を実施した。 授業内容の理解度の確認として受験した検定試験では、日商簿記2級に2年生が80%合格、3級に1年生が100%合格した。医事コンピュータ技能検定では、2年生が2級に80%、1年生が3級に100%合格した。 各分野の学習では、実務学習をベースとして授業を展開し、実力養成を図ることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程の改変により情報分野の単位時間を増大させるため、科目間の連携と実施内容の明確化が求められる。職員間の連携をより推進して対応を図りたい。 専門科目学習未経験者にも理解可能な指導方法の研究を図り、学習への関心を高める努力をする必要がある。 	今後とも、専攻科としての存在意義を発揮し、実力養成と実戦力の育成に努めていただきたい。検定取得についても成果をあげており、引き続き頑張ってもらいたい。	
2	<ul style="list-style-type: none"> 高校との連携・接続により、学校理解の進展を図るため、長期休業中等の特別講義や部活動指導に協力している。 育友会組織との連携を図り、保護者や学生の意見を反映させる必要がある。特に、授業改善・進路実現に関する声を反映し、開かれた学校づくりを一層推進する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 高校との連携を図ることはできたか。 育友会との連携により、保護者の意見を反映させる機会は設けられたか。 学生の現状、本校に対するニーズや期待を適切に把握し、対応することはできたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 高校において、部活協力や特別講義などを実施する。 学校見学会や説明会の開催、高等学校への訪問など、広報活動を行う。 育友会総会などの機会に、役員や会員からの意見や要望を積極的に聞く機会を設ける。 入試情報など、ホームページの更新を適切に行う。 学生の要望を取り入れる機会を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通じ、高校への協力を行ったか。 学校訪問などの広報活動は、例年以上に行われたか。 育友会からの要望を取り入れた教育活動は行われたか。 ホームページの更新は適切に行われたか。 学生からの要望を聞く機会を設けたか、また工夫・改善を図ったか。 	<ul style="list-style-type: none"> 高校との連携は、部活動協力など可能な範囲で実施した。 説明会、学校訪問の機会を例年以上に確保したが、入学者の増加には結びつかなかった。 育友会総会での保護者からの意見に対応した学校運営を行った。 学生の期待にある程度は応えられたと思うが、十分な期待という意味では改善する余地がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学生の期待に応える努力を通じ、学校の魅力向上を図りたい。高校との連携は、可能な範囲で実施したい。 保護者の意見を取り入れる機会を一層拡大し、よりよい学校運営を目指すことが求められる。 	生徒募集に向け、一層努力していただきたい。学生や保護者の声を大切に、開かれた学校づくりに取り組んで欲しい。	
3	<ul style="list-style-type: none"> 日々の学習活動を踏まえ、会計分野及び情報分野の知識を活かした進路指導(就職指導)を行っている。 多方面にわたる就職先をより多く確保するため、ハローワークとの連携を深めている。 修了時に全員の進路が決定できるよう、一層努力する取組みが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動と連動した進路指導が行われているか。 就職活動の取組みについて適切な進路指導が行われているか。 学生の進路実現を果たすことはできたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容が活かせる業種や職種の情報提供を図る。 就職ガイダンスを適切に実施し、就職試験で求められる事柄を個々の学生の状況に応じ指導を行う。 企業見学会や就職セミナーに積極的に参加させる。 就職試験に向け、面接指導を積極的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内進路ガイダンスによる適切な情報提供の有無 就職試験に向けた指導の有無、ハローワークとの連携、求人情報に基づく指導の有無 企業見学会やセミナーへの参加機会の確保と支援の有無 就職希望者全員への面接指導の実施状況 	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動と連動した進路分野に進路決定者の多くが結びついている。 ガイダンス、進路情報提供、面接指導、個別面談などを積極的に行った。 現在、5名中4名が進路決定している。未定者も進路決定に向けて活動し、支援を継続して行っている。修了までには全員の決定を目指したい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 早期からの就職活動に着手し、就職に向き合う心構えを作る必要がある。 本年同様、ハローワークとの連携を推進し、就職情報や求人開拓の機会を確保する。 学生が進路に向き合う際に求められるメンタル面の強化と進路準備の努力の大切さを理解させる。 	進路決定について、学校での学習が活かされている点が評価できる。在籍する学生の全員が進路決定できるよう、充実した進路指導および支援に努めて欲しい。	
4	<ul style="list-style-type: none"> 社会に出る前の準備教育として、基礎的なビジネスマナーを身に付けるための取組みを行っている。 行動力を高め、充実した日常生活を送らせるために、健康増進や体力向上にも取り組む必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活全般を通じて、基本的なマナーやルールを身につけさせる教育は行われているか。 健康管理の重要性に対する意識付けを図ることはできたか。 学校行事や健康増進に機会を設けることはできたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内における挨拶の励行を図る。 職員や講師とのコミュニケーションの際に、接遇マナーを身につけさせる機会を確保する。 生活全般を通じ、健康的な生活、環境美化を意識する機会を設ける。 体力向上と健康管理に対する意識づけとして、運動の機会を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 学生が充実した学校生活を送っているか。(全般に関する評価指標として) 必要な場面では、接遇マナーを意識した行動や、適切な言葉遣いを行っているか。 清潔で、明るく、秩序ある生活環境が維持されているか。 学生が運動する機会への協力は行われたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶の励行、時間を守る、責任を果たすなど基本的な生活習慣が身に付いている。 年間を通じて欠席者もほとんどなく、健康で学習活動・学校生活に取り組むことができた。 日頃から環境美化の意義を理解して学校生活を送っている。 活力ある学校生活を送るためには、体力の向上に関する取り組みが不足している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 現行の良い所を継続して実施することで、社会人になるための基礎力を養成する。 主体的・積極的に行動することで活力ある学校生活を送れるようにする。 学生との対話を重視し、教員も率先して学生との活動に関わりを持つ。 	学習面だけでなく、生活面の取組みは大切である。社会人となる基礎教育として、継続して欲しい。	